

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3071100279
法人名	社会福祉法人 紀三福社会
事業所名	グループホームひだまり
訪問調査日	平成 21年 8月 10日
評価確定日	平成 21年 9月 1日
評価機関名	特定非営利活動法人認知症サポートわかやま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3071100279		
法人名	社会福祉法人 紀三福社会		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	和歌山県海南市下津町方498-25 (電話) 073-493-3310		

評価機関名	特定非営利活動法人認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2階		
訪問調査日	平成21年8月10日	評価確定日	平成21年9月1日

【情報提供票より】(平成21年7月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 14人, 非常勤 3人, 常勤換算 13.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	45,000 円
敷金	有(100,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780円

(4) 利用者の概要(平成21年7月8日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名
要介護3	9 名	要介護4	5 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 64 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西本内科外科医院 ・ 川崎歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな環境の中に立つ3階建ての2階、3階部分の2ユニットのホームで、内部は広くゆったりとした作りになっている。1階にはデイサービスが併設されていて合同の行事も多く連携が取られている。職員は入居者一人ひとりの思いに沿ったケアを心がけており、対応困難な入居者に対しても、全員が情報を共有してケアできるような工夫がみられる。入居者がそれぞれ思いおもしろい生活を楽しめるように各ユニットがそれぞれ独自に取り組んでおり、自由な雰囲気が感じられる。より良いサービスを目指して意欲的な職員が多く、常に現状に即したケアを提供できるように取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議の改善や、地域との交流に向けての試みなど、職員間で話し合いできるところから具体的な改善に結び付けている。法人の協力が必要となる食事に関する改善にも前進が見られ、評価をサービスに反映できるように取り組まれている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	日常のサービス提供を見直す良い機会ととらえて、職員全員で意見を出し合って取組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	民生委員、市の担当者、家族をメンバーに3ヶ月に1回開催し、報告や意見交換がおこなわれている。出された意見は検討し、サービス向上に向けて取り組んでいる。開催日を日曜日に変更したことで家族が参加しやすくなった。入居者の参加はないが会議の後メンバーと交流の機会を持っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	1階のエレベーター横に御意見箱を設置しているがほとんど活用されていない。サービスの向上に反映できるように年2回の家族会には、紙に意見や苦情等を書いて提出してもらうようにしており、出された意見には迅速に対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	保育園・幼稚園と相互訪問の機会がある。民家が少ない地域で、近隣住民との日常的な交流はあまりないが、近隣に養護老人ホームがあり交流がある。地域の人と交流できる催しを企画し参加を呼び掛けるなどしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域のなかで安心して笑顔で活気のある生活ができることを支援する理念が作られているが、理念の中に「施設」の言葉が含まれた法人施設としての理念であり、グループホーム独自のものではない。		母体組織の理念そのままでもなく、職員全員で何が大切かを考え話し合い、独自に作り上げていくことが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフが常に目にするように2階、3階の入り口とエレベーターの中に張っている。ユニットごとの勉強会で確認し共有しているが、施設とグループホームの違いが職員全員に十分認識されていない面も見られる。		自分たちで考え作り上げる中で、地域密着型のグループホームとして、入居者の生活を支えるには何が必要かを再認識して実践してほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設のデイサービスと合同で幼稚園児と交流できる行事を行っている。日常的な地域住民との交流は少ないが交流に向けて努力しており、「おやつをいっしょに作って食べませんか」と企画したチラシをポスティングしたところ一組の親子が来てくれた。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で意見を出し合って作成した。外部評価による外部の視点や自己評価を振り返りや気づきの機会ととらえており、職員間で話し合い、できるところから改善していくように努力している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、市の担当者、家族、をメンバーに3ヶ月に1回開催し、報告や意見交換がおこなわれている。開催日を日曜日に変更したことで家族が参加しやすくなった。入居者の参加はないが会議の後メンバーと交流の機会を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月ホームの状況報告を行っている。なかなか来てもらえないが、催しがある時は必ず案内している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ホーム便りと一緒に、入居者から家族にあてた手紙を送るように支援して報告を行っている。年2回の家族会には、外部評価に目を通してもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ではなく1階エレベーター横のほうが利用しやすいと考えて、御意見箱の設置場所を変えてみたが、殆んど活用されていない。家族の訪問時に話を聞く以外に、年2回の家族会には用紙に意見や苦情等を記入してもらい、サービスの向上に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間は出産で1名が退職した以外離職や異動はない。入居者の半数以上は気がつかない様子でほとんど影響はなかったが、わかって尋ねる人には、聞かれるたびに何度も説明するようにした。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は常勤が中心となっており、月に1度の会議の中で伝達研修を行っている。あらかじめ職員の希望する研修内容を聞いておき、内容に合った研修があれば紹介し受講の支援をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年4回地域密着サービスの部会に出席して、地域の同業者と交流できる機会を持っている。グループホーム連絡会のネットワークにも加入している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	併設のデイサービスの利用を経由する入居者もいるが、諸事情でいきなりのサービス開始となる入居者が多い。新しい入居者が不穏にならず安心してホームの生活に馴染んでもらえるように、スタッフが常に寄り添い声かけ等に配慮して支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	入居者が教えてくれることも多く、職員は介護する人、される人という区別した意識は持たずに自然な形で共に過ごすように努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	日々入居者の思いをくみ取れるように努め、気づきノートを活用して把握、共有してケアに活かし、外泊、外食、買い物など、入居者の希望に沿うように心がけ支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	業務日誌以外にも、気づきノートを活用して、部屋の温度や本人の言葉など職員の気付きをなんでも記入できるようにしている。こまやかな記録を共有し、より良いケアについて話し合っって介護計画を作成している。家族には希望を直接介護計画に記入してもらっている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3か月に1度の見直し以外にも変化があったときには、そのつど話し合い、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ建物の1階部分に併設されているデイサービスの行事に参加できるよう取り組んでおり、時には温泉気分で庭園を眺められるデイのお風呂を楽しむこともできる。法人の訪問看護ステーションと医療連携がとれていて必要時に看護が受けられる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は原則家族にお願いしているが、場合によっては職員が行うこともある。主治医が決まっていないときは、近隣の2つの医療機関のどちらかを選んでもらうようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人の訪問看護ステーションと医療連携はとれているが、原則として重度化した時は病院等へ移動してもらう方針であることを最初に説明している。そのつど家族と話し合っ決めてるようにしており、今までに看取りの経験はない。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライバシーについては、声かけ等常に配慮されており、きめ細やかに対応している。個人の記録等は事務所で適切に管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースにあわせ、希望を尊重するように支援しているが、入居者が財布を持つと無くしてしまい物盗られ妄想につながりやすいことから、財布を持ちたい入居者がいても、小遣いはホームで預かり管理するようにしており、買い物の際も職員が支払っている。		自分で金銭を支払い買い物をする喜びが持てるように、入居者が財布を持って買い物ができるような支援の工夫を試みてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど職員と入居者が一緒に行っているが、同じテーブルで一緒に食事をとることはされず、職員は交代で休憩を取り別室で食事している。2階では月に1回、3階では月に4回職員と入居者が食事を共にしてふれあえる日を設けている。		ケアの一環として、日常的な生活のなかで食事を共にしてコミュニケーションを深めてほしい。毎日自然な形で一緒に食事を楽しむことができるような体制づくりへの取り組みに期待する。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯は日中としているが、入居者の希望に応じていつでも入浴できるように支援している。たまにはデイサービスの風呂を使わせてもらうこともあり、広くて景色もよいのでゆったりと入れる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理、テーブル拭き等各自が何らかの役割を持って生活できるように支援している。カラオケの好きな人はデイサービスに誘ってもらい、外出も個々の希望に合わせて支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望を聞いて月に1度少人数での外出に出かけている。毎回同じ顔触れになってしまいがちだが職員と一緒に買い物に出かける。ドライブや散歩なども個々に支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び職員は鍵をかけることの弊害を理解はしているが帰宅願望の強い入居者や、不穏な状態の多い入居者への対処のため、やむを得ず鍵をかけている時間が多い。		入居者一人ひとりの癖や傾向をきめ細かく把握できるように努めて見守りを強化し、常に鍵をかける時間を少なくできるような工夫を行うよう、より一層の努力が望まれる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の訓練はマニュアルに沿って行われている。食料の備蓄は冷蔵庫にあるだけであるが、今後検討していく予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は食べなかった場合だけ記録しており、水分量は生活シートに記録している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広くゆったりとしたスペースで、食卓、テレビの前のソファースペース、片隅に設置された二人掛けのソファに加えて畳の部屋もある。それぞれの場所で各自が自由に過ごすことができ、ユニットごとにそれぞれ独自の雰囲気の中、生活感が感じられ居心地良く生活できるように工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれの入居者のものが持ち込まれており、その人らしい部屋となっており、居心地良く過ごせるように整えられている。		